



国際キワニス年次総会トロント大会報告 2016.6.23-26

トロントは天候に恵まれ、最高気温は30℃にもなりましたが、湿度が低く快適な環境での総会でした。日本からの参加人数は18名、内15名は東京クラブでしたので、他クラブからの参加が少なかったのは若干寂しい思いがしたものです。会長選挙では予定通り、次期会長にジェーン・エリクソン、次次期会長にジェームス・ロッチフォードが選出された後、その次の会長となる副会長の選挙で、予想外の展開でフィリピンのポリィ・ラットが選出されました。本命と目されていたエリミネイト・プロジェクトの委員長を務めたランディ・ディレイとポリィ・ラットとの決戦投票になり、ポリィ・ラットのハートに訴える素晴らしい演説が決め手になったようです。

総会の忙しい日程の合間を縫って、東京クラブと、ラフィエットクラブの姉妹クラブ提携セレモニーが開催されました。総会会場の広いオープン・スペースで行われた式典には、現会長、次期会長を始めとする国際キワニスの首脳陣が多数参加して心のこもったスピーチをされた後、星会員の指導でキワニスドールの講習が行われました。このためその場に居合わせた、関係者以外の多く



のキワニアンからも祝福された上、総会の場で国際キワニス事務総長が同式典について紹介するなど、東京クラブが一躍注目されたのは、嬉しい「想定外」の展開でした。

この間、国際役員会が2020～2021年度まで国際会費を年間2ドル以内、5年間5ドル以内で調整できるようにするとの案は否決され差し戻されています。少額ながら総会で決めるべきとの意向が大勢を占めました。「代表なきところに課税なし」というアメリカ民主主義の原点を改めて感じた大会でもありました。オンライン投票

についても今回で2回目の否決となりました。技術的に難しく、また大会の参加者が減るといった懸念もある一方、会員全体の意見をどう反映させるかが将来問われてくると思います。キワニスクラブの会員減少は深刻な問題で、毎年32,000人が辞めています。北米エリアではネットで会員数が減少しており、今回会員を増やした優秀地区として、台湾、日本、ニュージーランド、イタリア及びサンマリノの4地区が選ばれました。

次回開催地はパリ、2017年7月13日～16日です。

(吉國真一会長)



ラフィエットクラブと姉妹クラブ締結について

ラフィエットクラブのあるラフィエット市は、国際キワニスの本部を構えるインディアナ州インディアナポリス市の北西約100kmに位置する人口7万人の歴史ある米国中西部の都市ですが、日本のスバル社が米国での生産拠点を有する日本と関係の深い都市でもあります。隣のウエストラフィエット市には有名なパデュー大学があります。ラフィエットクラブは、今年で創立100周年を迎えた最も古いキワニスクラブの一つです。100名を超えるメンバーの中にはパデュー大学関係者の方々もたくさんいらっしゃいます。姉妹クラブとなろうという話が持ち上がったのは昨年10月のことです。この歴史あるラフィエットクラブで日本人として初めて会長に就任された尾形隆彦氏が里帰りで一時的に帰国されたおり、東京クラブの火曜例会に出席されました。東京クラブの会員と活発に意見を交換する中、翌年にラフィエットクラブが創立100周年を迎えるので何か記念になることをやりたいとの話が有り、それなら姉妹クラブとなって共同してプロジェクトに取り組むのはどうだろうかということになりました。この話は、その後とんとん拍子にまとまり、11月には基本構想と姉妹クラブ合意書の締結を翌年のトロント国際大会の場で行うことなどが決まりました。今



年の4月に具体的な合意文章の内容もまとめ、当面共同で取り組むプロジェクトはキワニスドール、合意書締結日は、トロント国際大会開催期間中の6月23日と決められました。今後、文化交流、人的交流、地域社会の子どもたちにインパクトのある共同プロジェクトの開発など具体化に向けて取り組んで行くことも合意されました。6月23日トロント大会会場の一角で、両クラブの参加者が顔合わせしたあと、ステージ上で調印式が厳かに執り行われました。この場には、ペトリシン会長、エリクソン次期会長、ロッチフォード副会長並びにソーダストロム専務理事のご臨席を仰ぎ、吉國会長と尾形会長による合意書調印の証人になって貰いました。そして、幹部の皆様からそれぞれ心温まる祝辞と激励をいただきました。そのあと、星会員によるキワニスドールの作り方のプレゼンテーションが行われて、ラフィエットクラブから参加者の皆様につくり方の実地指導が行われました。最後に両クラブからの参加者が一緒にランチを楽しみ親交を深めるとともに、将来に向けて友好関係を一層発展させていくことを確認しました。こうして東京クラブで初めての姉妹クラブ関係が船出しましたが、共に努力を重ねて、目指す目的の港に到着できるように頑張っていきたいと思います。(吉田浩二前会長)

国際キワニス年次総会に参加してのキワニスドールづくり

カナダトロントでのキワニスドールづくりは本当にビックリ・ポンでしたが、その経緯・結果を話します。

東京キワニスクラブとラフィエットクラブの姉妹クラブ締結の話の中で、キワニスドールが話題となり、ドールの見本を届けました。そのドールに地域の病院が大きな関心を示したので、ラフィエットクラブとして本格的に取り組むことになったそうです。それで実際のドールづくりの指導・助言をしてほしいとの要望があり、トロントでの国際大会に双方の会員が参加し、時間を融通し



でドールづくりをすることになりました。

事前に東京側は英文マニュアル、綿詰め用ドール、ラフィエット側は綿、その他小物を準備し持参しました。

ドールづくりは初めに基本的な考えの説明後、実際の綿詰めを実演するデモンストレーション。会員の綿詰め作業はステップごとにチェックする案で考えましたが、時間の都合でデモンストレーションは取りやめ、実物で出来のよいドールは綿が均等に詰められており、頭部を軽く支えるだけでちゃんと立つことを示しました。

次に均質に詰めるには2点注意すること。第1点は綿をとにかく細かく千切って見かけの容積を増やすこと、第2点は千切った綿を狭い開口部から入れるときに丸めて入れ、強く押して詰めないことを強調し、綿詰作業にかかりましたが、和気あいあいとスムーズに進み、脇とじも経験者が2人おられ無事完成しました。綿の繊維が太目で少しゴワゴワした感じでしたが、良い出来ばえでした。

その後ラフィエットに戻ってから30名以上の会員でドールづくりをされたとのメールが届きました。初めてのことで苦労されたようですが、素晴らしいことです。遠くまで行った甲斐がありました。

(星利樹ボランティア活動委員)



サークルK 武蔵野大学チャーターセレモニーについて 2016.7.31

7月31日に、サークルK武蔵野大学(コネクト)のチャーターセレモニーが同大学武蔵野キャンパスの「雪頂」講堂で開催されました。東京クラブがスポンサーする初のサークルK、日本地区で初の単一大学ベースのサークルKです。大学側から、西本学長、久富教授(サークルKアドバイザー)等、キワニス側からは北里国際理事、日本地区の倉田ガバナー、多田青少年教育委員長(SLP担当)、東京クラブからアドバイザーを務める吉國外多くの会員が出席しました。西本学長、北里理事を始めとする来賓方からのスピーチに加え、Sue Petrisin 国際キワニス会長からもメッセージ(北里理事代読)が寄せられました。認証状へのサイン、認証状の授与を経て、サークルKの近藤会長からメンバーの紹介と活動実績の報告があり、さらにキワニス・ユース・フォーラムを代表して身延山高校手話コミュニケーション部が、手話を交えた挨拶を行うなど素晴らしい式典となりました。

認証式の後も隣接する校舎の教室で懇親会が開催され、キワニス会員とコネクトのメンバーがこれからの活動について協力を誓い合いました。サークル名コネクトは、仏教用語の「ご縁」に通じます。武蔵野大学のルーツは、関東大震災後に「日本のマザー・テレサ」ともいわれた、親鸞聖人の血を引く西本願寺門主の令嬢九条武子が、

築地本願寺境内に設置した救護センターでした。本願寺の僧侶だった私の母方の祖父がその救護活動に参加していたこと、サークルK成立のきっかけが、武蔵野大学客員教授だった私が学生からボランティア活動に関するアドバイスを頼まれたことにあること、コネクトがサークルK認証後最初に行った活動が熊本の震災の支援であったこと……様々な「ご縁」を感じながら、武蔵野キャンパスからの帰り道、ふと口ずさんだのは、歌人九条武子の代表作「無憂華」の冒頭を飾る以下の歌でした。

**おほひなるものゝちからにひかれゆくわがあしあとの
おぼつかなしや**

(吉國真一会長)



「キワニス子ども食堂in妙法寺」開催 2016.8.2

子ども達の夏休みの8月2日(火)、杉並区の名刹妙法寺で標記の会を催し230人の参加がありました。

100食用意しましたとチラシに書き、念の為150食準備し、やり繰りで200食提供しましたが、カレーもパスタも米も底を突き、力も尽きて最後の30名にはサッポロ提供のぶどうジュース(ペットボトル)でご容赦頂きました。

会員17名・家族友人5名・千代田クラブ2名・事務局2名が参加し、飯炊き・案内・掃除など奮闘しましたが、

皆昼飯は抜きとなりました。

古今亭今輔師匠の落語や、地域の方5名に依る「茶道体験」、高校生・大学生等のボランティア20名の「ジャグリング体験・バルーンアート作り・工作コーナー」には行列が出来る程で子ども達は3時間を堪能しました。

なお、これを機に地元の皆さんが中心になって妙法寺で学習支援+食事の「寺子屋」を持続的に開催しようとの話が進んでいます。

(鈴木祐二事業企画委員長)



キワニス
「キワニス」とはアメリカ原住民の言葉(みんな一緒に集まる)に由来します

子ども食堂

in みょうほうじ (妙法寺)

8月2日(火) 12:00~15:00

食事受付 … 13:00まで

100人分のお食事あります

ビーフカレー、スパゲッティ、サラダ、デザート、飲み物

むりょう
無料

お申し込み不要

<主催> 一般社団法人東京キワニスクラブ
 <後援> 杉並区社会福祉協議会
 <協賛> 堀之内 妙法寺 株式会社学生会館精養軒 サッポロホールディングス株式会社

◆キワニスクラブって何?◆
1915年にデトロイトに設立された、世界三大国際奉仕団体(ロータリークラブ、ライオンズクラブ)の一つです。特に子ども達のサポートに力を入れています。

◆受付: 妙法寺 入り口 (山門前)

◆当日のプログラム

- ① 食事 12:00~13:30
- ② 子どものための落語 13:00~ (六代目 古今亭今輔師匠)
- ③ 体験・遊びコーナー 13:40~
茶道体験
ジャグリング体験
バルーンアート作り
工作コーナー

<保護者の皆様へ>

- ※ 参加されるお様に食物アレルギーがある場合は必ず受付でお申し出下さい。
- ※ 食事のメニューは変更になる場合があります。
- ※ 当日の体験・遊びのコーナーは変更になる場合があります。

妙法寺 山門でお待ちしています!

豊島区で開催した「子ども食堂」たくさんの方が来てくれました!

キワニス子ども食堂に参加して 2016.8.2

キワニスに入会して10余年、現職中は金曜例会にはなんとか精勤していましたが、実際の活動としては、週日には東京不在で、心ならずも奉仕活動は思うに任せず、ドールづくりには精をだして協力していましたが、そのほか10年も若かった当時はマラソンにも興味があり、オレンジリボンたすきリレーのランナーとして参加した思い出がある程度でした。

この度、現役を引いて、夫の介護のみがのこされた責任となった現在、すでにキワニスの活動として発足していた子ども食堂には以前から是非参加したいと思って早速参加を申し出たところ、なんと全く不得意なご飯炊きの御役目を割り当てられて、内心不安でしたが、そこは文明の機器と若い主婦達のサポートで、無事おいしいご飯を提供できてほっといたしました。私が実際力を出したのは、こびりついたなべ底洗いくらいでした。

終始厨房におりました関係でじっさい子どもたちとの接触は全くもてず、彼らの喜ぶ顔に接することができなかったことは残念でしたが、この裏方としての役目は、私の性格上、適役だったといえましょう。もしもう少し準備段階から参加しておりましたら、今回の提供不足は防げたかもしれないと、残念に思えました。お米をもう一袋余分に準備していれば、協力してくれたボランティアの学生さんたちへのせめて握り飯でも提供できたのではないかと、これは女性としての配慮です。お米なら残っても次の機会に保存できたし、230名の参加という嬉



しい悲鳴は、なんといってもこのたびの会を準備してくださった鈴木祐二委員長の頭の下がる綿密な準備に基づいており、その充実した企画力にはキワニスの会員として、どれほど誇らしく思えたか、その組織力にはさすがリーダーとしての資質に頭が下がる思いでした。反省事項としては、お手伝い頂いた茶道のグループのおばさまたちに初めに食事を提供してしまったことくらいでしょうか。

今後も、好評であったこの企画を子どもたちへ提供し続けることは、少子化を抱える日本の現状にたいして、我々化石は何ができるか、健全な子どもたちの成長を願って、エールを送るキワニスに最もかなった直接的活動であるに違いない。

(山口知子会員)

キワニスドール・フェスティバル開催報告 2016.7.10

5-9月中のキワニスドールづくりは、ウェルズファーズ証券会社と将来のドール需要に繋がる可能性の高い看護専門学校2校、並びに高等学校1校(学園祭)においてキワニス会員による指導・支援活動を積極的に展開、7月10日には「キワニスドール・フェスティバル」を開



催しました。

「キワニスドール・フェスティバル」は、従前別々に開催していた「キワニスドール・シンポジウム」と「ドールづくり」を合体して同日開催という片山委員長の企画に基づく初めての試みです。会場は、(株)パソナグループ様の本社会議室を借用、またサッポロホールディングス(株)様からは参加者への飲み物をご提供いただきました。開催期日がたまたま参院議員選挙投票日とちかいましたが、会員並びにその家族とJUNKO ASSOCIATIONやサークルK武蔵野大学の学生、さらには外部奉仕団体の皆様のご協力をいただき、一般の方々を含む参加者総数は90名余りと盛会でした。

最初に吉國会長のご挨拶があり、次に東京大学医学部附属病院小児外科PHCU主任副看護師長の岡崎千津様から、医療現場におけるキワニスドールの具体的な活用状

況の報告をいただきました。ドールづくりは、①「型取り・ミシン・裁断」、②「表返し・アイロン」、③「綿詰め・脇縫い」、④「綿分け・袋詰め」の4工程に分かれて作業を行い、最後に棚澤副会長から締めのご挨拶がありました。

参加者アンケートによると、「初めてドールづくりを体験、細部にまで気を使って作られており、改めて感謝したい。病院での実際の活用状況を聞いたことも大変良かった。」「今回は綿詰めの作業を行いました、とても愛情がわいて、この人形を手にした子どもたちが明るい笑顔になることを願います。」等、総じて高い評価をいただきました。一方、民間企業の会議室を週末利用することに伴うセキュリティ上の要請と、「会場への導線案内が不十分」といった運営上の問題とは二律背反の関係にあり、悩ましい課題も残りました。

会員はじめ関係の皆様方のご協力に改めて厚く御礼申し上げます。

(細田久雄ボランティア活動副委員長)



キワニスドールづくりに初めて参加をして 2016.7.10

昨年から、一度キワニスドールづくりに参加をさせて頂きたいと思っていたところ、今回良い機会に恵まれ、初参加をすることができた。主役は、キワニスドールづくりを目指してやってこられた学生さんや企業の方々であり、当方は、まずは、暗闇で目を慣らすように、さてどこに座りどうふるまえば良いのか慎重に滑り出す。

大部屋の壁際に座り、全体のご挨拶や進行を見つつ、少しずつ中に入り、中ほどのテーブルの空いている席を見つけ、さていよいよドールへの綿詰めに取り掛かる。まずは、見よう見まねで、綿を千切り詰めていくが、どうも自信がない。隣の方に如何なものかと聞いてみると、お隣様は、今回が二回目の女性で、私も自信がないと言われつつも、なかなかの腕前。当方も、それを真似しつつ形を作る。仕事をてきぱきと早くやることには日頃から慣れているが、どうも、ドールへの気持ちの入れ方と、そのための丁寧さが足りないのか、自分にも雑な作品のような見栄えに見える。その時、キワニスのベテランの

諸先輩が回ってきて頂き、綿の千切り方が足りず、足や手の曲りが滑らかでないのご指摘を頂き、再度綿を取り出し、丁寧に千切って綿詰めを再度行い、ふっくらと



した心のこもったキワニスドールが出来上がっていく。この暖かいご指導には、流石にキワニスの先輩方のスピリットが身を以て伝わってくる。これこそ初参加をしてよかったという貴重な体験であった。

ミシン縫い、アイロン掛けまで試してみようと試みたが、ミシン掛けで、時間が来てしまった。ミシン掛けは、日頃ミシン掛けをしたことがない当方にとっては、キワニスドール初参加の前に、そもそも、ミシン道具利用初参加であり、まっすぐ縫ったり、うまく回転させたりは、なかなかのハードルであった。加えてミシンの調子が悪く、丁寧に教えて頂いた先輩からは、ミシンが良くないので、しょうがないですねと、優しいお言葉で、当方の



能力不足に触れずに対応をしていただいた。こちらも感謝する次第である。

というわけで、キワニスドール初参加は、暖かな雰囲気なかで、大変にありがたい経験であった。最後に、学

生さんの写真撮影にも参加させて頂き、初参加とは思えない表情で写真に写らせて頂いた。貴重な土曜の午後の経験に、心より御礼申しあげたい。皆様、ご苦労様でした。

(中井毅国際委員長)

第50回キワニス社会公益賞贈呈式 2016.9.2

9月2日の例会の席上、第50回キワニス社会公益賞の贈呈式が行われました。

NPO法人こどものちから」は築地の国立がん研究センター中央病院12階の小児待合室に詰め、見舞いに来た小学生以下の兄弟を受け入れ、遊びを通じて心に触れ、また、親御さんとの心の広がりを通じて、がんや難病の子どもを抱えた家族に対して様々な相談に応じたり、お互いの交流の場を設けるなど、いろいろな面の支援に努めている。

「さーくる縁」は、心身の発達に遅れのある子どもと保護者の互助会として活動し、特に、「ふれあう心つながる縁コンサート」に力を入れている。プロの演奏家にボランティアとして協力を得、参加型の演目をなるべく取り入れ、喜びを跳ねることで表現したり、笑顔いっぱいでのびのびと音楽を楽しむ機会としている。

「こころの青空基金」は、北海道から沖縄まで児童養護施設を訪問し、子ども達とふれあい、ともに過ごす時間を持って心を開かせ、また、養護施設の退所者の生活指導、就業等自立支援にも努めている。

贈呈式には、それぞれの団体の代表が出席され、吉國会長から表彰状が贈呈された。

受賞に際して、「NPO法人こどものちから」理事長の井上るみ子さんは、「このような名誉ある賞をいただけることは、私どもの団体にとってありがたいことです。国立がんセンターで治療している子ども達や兄弟、家族そして全国の小児がんを患い頑張っている家族、兄弟にそのまま送り届けたいと思います。本当にありがとうございます



ました。」に続いて、日常の活動状況の中でのエピソードをまじえて熱っぽく語った。



「さーくる縁」代表の川村紀子さんは、「このたびは、私達のような小さな団体で、ささやかな活動をしているものに光を当てて、温かい気持ちをいただいた。エールを力に変えてこれからも夢を膨らませて進んでいきたい。」と語った。



また、「こころの青空基金」代表の坂本博之氏は、「このたびは名誉ある賞をいただきまして誠に感謝しています。」に続いて、「自分自身の養護施設での経験を踏まえ、ボクシングを通して全国の養護施設の子ども達に熱を伝える活動を続けていく。」と語った。

贈呈式について東京新聞、読売新聞、The Japan Newsに掲載されました。

(都甲洋史社会公益委員長)

第32回青少年教育賞表彰式・交流会開催 2016.9.10

去る9月10日にドイツ文化会館において第32回青少年教育賞・交流会を開催しました。今回は本年の表彰団体として3団体、ユースフォーラムから5団体、前年度表彰団体から1団体、合計で9団体のご参加を頂き、事務局及び各委員のご協力のもと盛況に終了することが出来ました。

本年の表彰団体は、3団体とも国内で活動されているNPO法人で、組織的にもしっかりとした腰の据えた活動をされており、各々特徴のある評価の高い団体を選ぶことが出来たと考えています。最優秀賞の日本教育復興連盟は、小学校や高校の現場に学生の皆さんが直接入り、教育のサポートをする活動や、復興支援として東北の子どもたちを東京に招き、職業観という観点から2泊3日のスタディーツアーを実施、子どもたちと直接向かい合った積極的な活動を委員会として高く評価しました。優秀賞としては、日本の伝統文化を普及し、日本を大好きになってもらうというコンセプトのもと、年間200日以上積極的な活動をされた多摩大学村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト、発達障害児者の自立をサポートするために、10年に亘り学生目線でスポーツや遠足等の活動を継続されている、国際ボランティア協会東京多摩クラブ東京八王子クラブの各団体を表彰さ



せて頂きました。審査を通じて各団体の学生の方とコミュニケーションの機会を持ちましたが、活動をされている方々の真摯な取り組みと熱意が強く伝わってきました。また、今回の受賞を契機に、更なる活動の活性化を目指して行きたいとお話も頂き、青少年教育賞の意義を十分満足出来たのではないかと思います。

本会のもうひとつの目的である各ボランティア団体の交流会に際しては、吉田前会長の司会で、SLPの紹介も含めて盛り上げていただきました。交流会に関しては、普段中々接点のない団体同士、有益な時間を作ることが出来たと思います。また今回参加出来ませんでした。SLP団体の武蔵野大学からビデオメッセージを頂き、今後のボランティア団体との新たな交流が期待できると考えています。今後、表彰式・交流会に集って頂いた各団体の質量とも備わった活動そのものの魅力や、各団体に参加されている学生の皆さん自身の純粋な志を如何にキワニスの活動に繋げていくか、更には彼らがキワニスと接点を持ったことで如何に活動の質量の向上に繋げるか、ということが益々問われてくると思います。今回の成果と反省を踏まえて次年度の青少年教育委員会の活動に結び付けて参りたいと思います。

(木本健青少年教育委員長)



国際キワニス日本地区年次総会西宮大会の報告 2016.9.9

「僕が何かをすることで、僕以外の誰かが喜んでくれることが今の僕にとって何よりも大事なこと」。大リーグ3千本安打の偉業を達成したイチロー選手のコメントは、ボランティア活動の本質に迫る名言です。本年の第40回

キワニス日本地区西宮大会も、「他人の喜びを自らの喜びとなす」精神が息づいた会合となりました。東京クラブからは36名と例年通り主催クラブを除き最大の人数が参加、海外からも、国際キワニス財団(KIF)のファン・チャ・

シン会長（日本地区カウンセラー）、ブライアン・キューナット元国際キワニス会長、ディーパック・バンダリ・ネパール・ルンビニキワニスクラブ会長が参加しました。

例年通り、次年度の事業計画（国際キワニスのI-Planを踏まえたもの）を承認した後、次年度の役員として、藤原武平太ガバナー（東京）、佐藤嘉昭次期ガバナー（仙台）、伊藤一實事務総長（東京）、鎗木栄胤監事（千葉）をはじめ8人の副ガバナー、常任、特別委員長の人事が決定されました。今回の特別な議題としては、ASPAC大会の日本会合の際、常に不足する諸費用を賄うため、年会費に千円上乘せして準備積立金を設立する提案が了承され、事務局で詳細が検討されることとなりました。

しかし何といても本大会の白眉は若者たちの活躍だったと思います。まず、キワニス文化賞に選ばれた地元出身の音楽家中西覚氏が率いる「西宮少年合唱団」が、数々の国際フェスティバルで入賞した素晴らしい歌声で、多くのキワニス会員にとって懐かしい「日本のうた」を聞かせてくれました。そして、今回キワニス日本地区50年余の歴史で初めて行われた「SLP 会員からの報告」に、日本地区初のSLPサークルK芦屋と共に、東京クラブがスポンサーするサークルK武蔵野大学・コネクト、座間

アメリカンハイスクール・キークラブの代表が登壇し、各々の活動を報告したのです。いずれもイチロー選手の発言を地で行くような利他の精神に満ち溢れたものでした。3団体は翌日も大阪でリーダーシップ研修に参加、コラボレーションの強化に向けて有益な話し合いを行ったそうです。こうした若者達の活躍を後押しして、「平成ボランティア・ルネサンス」につなげて行きたいなどと大言壮語しつつ、会場の大阪国際会議場を後にしました。

次回開催地は松江（2017.9.8）です。

（吉國真一会長）



西宮大会に参加して

今年の日本地区年次総会は西宮クラブがホストとなり、大阪で開催された。クラブ新設委員長の任にある私は、まず総会に先立って開かれた成長戦略委員会に出席した。キワニスの日本地区全体が成長・発展していくには「既存クラブの会員増強と新クラブの設立の両輪が必要」という点では一致したが、そのための道筋についてはいろいろな意見が出た。

「クラブ新設も会員増強も先行するロータリー、ライオンズが壁になっている」、「青年会議所を“卒業”した若手経営者を入会させたいがロータリーに持っていかれる」、「いやロータリーもライオンズも会員はどんどん減っている。もうステータスを求めてクラブに入る時代でなくなった」。

議論を通じて、地域によってクラブ設立の経緯も、中心となっているキーマンやその人脈も、力を入れている事業も、大きく異なることが感じ取れた。

今回のホスト役である西宮クラブはなんと会員の70%が女性会員で、設立時には数組の夫婦が個人宅で例会をしていたということも初めて知った。

総会後の懇親パーティーでは、丸テーブルを囲んで、全国から集まったさまざまなクラブの方々と話しをする

ことができた。それぞれのクラブに特徴があり、違った悩みや課題を抱えている。

地域を超えた他のクラブとの情報交換の必要性を強く感じるとともに、新しいクラブの開設についても、過去の例にとらわれない柔軟な発想が大切だと気づかされた。限られた時間ではあったが、貴重な経験ができたと感じている。

（鈴木健司クラブ新設委員長）



日本地区年次総会西宮大会におけるSLP会員からの報告

まず、各団体の報告会では、自分たちの活動報告をすると同時に他の Circle K 芦屋や、座間 Key Club の活動報告の共有をした。あの様な時間はとても貴重で、各クラブのモチベーションに繋がる素晴らしいものだと感じた。大学生、高校生の Kiwanian が一つの場所に集まるといった様な機会は今回が初の試みだったということで、是非今後も続いてほしいと強く感じ、一年に一度ではなく、定期的集まる機会が増えると、より良いだろうと感じた。

また後半には、Kiwanis Club 百周年を記念して作られた Kiwanis Song にのせて私たちがそれぞれ振り付けを考えたダンスを披露した。あまり上手には踊れなかったが、Together という歌詞に合わせ、手を繋ぎ上に掲げる動作を多くの方が立ち上がって真似して下さった。会場の雰囲気はとても暖かい雰囲気に包まれ、とても居心地がよかった。Circle K 武蔵野大学は認定されて間もなく、こんなにも多くの Kiwanis の方々と関わる機会は今回が初めてであったが、ダンスを通じて、新たな素晴らしい一面



も知ることができ、これからも Kiwanis の皆様と関わっていきたく強く感じた瞬間であった。

(Circle K 武蔵野大学 広報長 三浦 匠吾)



二日目に行われた SLP リーダー研修会は、学生同士で濃い話し合いができ、実に有意義な時間であった。話し合いの中で、Circle K 芦屋の多田玲子様をはじめ、周りの大人の方々のサポートにより円滑に話し合いは進み、Circle K、Key Club 共に今後の活動がよりよくなっていくだろうと確信できた。また、Circle K 芦屋や、座間 Key Club の皆様と初めて直接お会いし、お互いを鼓舞し合うことができ、機会があればこれから他の企画なども協力、実行していきたいと感じた。さらに、Kiwanis Club という団体について、より理解が深まり、Circle K 武蔵野大学としての活動がより楽しみになった。SLP の一員として、責任と情熱を持って今後の活動に励みたい。

(Circle K 武蔵野大学 会計長 伊藤 賢也)

サマーパーティーの報告 2016.7.29

長かった梅雨もようやく明け、夏の夜空と共に、7月29日 ライオン銀座7丁目店、クラシックホールでサマーパーティーが開催されました。

サマーパーティーは、御家族、御友人なども出席できる、和やかで楽しい会となっております。浴衣姿の内丸摂子レクリエーション委員長の楽しい司会のもと、吉國眞一会長の御挨拶から始まり、7月・8月生まれの皆様に壇上にお上り頂き、夏を乗り越えるコツを一言ずつ頂戴致しました。ユニークなお答えを頂き、笑いの中で和やかな乾杯の音頭をとって頂きました。

漆間徹会員、荒木なぎさ会員による、ピアノ連弾の始まりです。一曲目「ハンガリー舞曲第5番 ブラームス」・二曲目「ハンガリー舞曲第1番 ブラームス」・三曲目は「花は咲く」皆様の拍手喝采の元、ラストは、「3つの軍隊行

進曲 第1番 シューベルト」でした。お二人の素晴らしい連弾に皆様、しばし我を忘れて聞き惚れておられました。「花は咲く」では、三月に『三陸の旅』を行った思い出と



共に、会員の皆様、列席の皆様と共に口ずさんで合唱致しました。荒木会員は、28年ぶりのピアノ演奏とのことでしたが、プロ並の技術で素晴らしかったです。漆間会員は、学生時代からずっと続けておられるピアノで、皆様に魅了されていました。奥様の牧子様の譜めくりのアシストも微笑ましく、素敵な時間となりました。サブライズで『なぎさ会』の『倶楽部エル』支配人 工藤郁子様が、小野洋一郎会員と共に花束を持って駆けつけて下さいました。アンコール曲は「フーガ ト短調 バッハ」。

皆様、しばらく余韻に包まれていました。

その後、美味しいお食事と、アルコールで話もはずみ、これから始まる夏本番に向けて、活力の源となられたことと思います。棚澤青路副会長の中締めの御挨拶で、2016年サマーパーティーも盛況のうちにお開きとなりました。

皆様どうか、この夏もお元気で過ごして下さい。

(山田明彦レクリエーション委員)

「開東閣でおいしいランチと室内楽を楽しむ会」に参加して 2016.7.23

7月23日の晴れた夏の日に、「開東閣で美味しいランチと室内楽を楽しむ会」に妻と共に参加しました。開東閣は、一般非公開の旧岩崎家高輪別邸です。鬱蒼とした木々に囲まれた洋館の広間で、世界的ヴァイオラ奏者の大



山平一郎さんら4名の演奏家が奏でる室内楽を間近で聞くという贅沢な時間を過ごしました。演奏前に、4名の演奏家が演奏する曲目を解説し、演奏者の息づかいも聞こえるなど、聴衆とまるで対話するかのような演奏で、まさにこれぞ室内楽というものでした。演奏会の後、大山さんら演奏者の方々と一緒にランチを楽しみながらいろいろなお話を聞くこともできました。大山さんによれば、才能ある若手演奏家を育てるためには、このような室内楽コンサートを数多く経験させる必要あるとのことでした。私も、単に演奏を楽しんだだけでなく、日本の才能ある若手演奏家育成にわずかですが貢献できたのかなと自己満足に浸ることもできました。私にとっては、日々の煩わしさを忘れて過ごす夢のような時間でした。

(大野重國会員)

ペンシルバニア地区大会にカウンセラーとして参加して

今年の私のカウンセラーの役は、ペンシルバニア地区と韓国地区とイタリーサンマリノ地区の3地区となりました。ペンシルバニアは8月11日から14日、韓国とイタリーサンマリノは9月3日-4日と大会日が重なったため、9月は韓国へ行くこととし、イタリーサンマリノは来年春の中期大会を目指すことにしました。

ペンシルバニア地区のカウンセラーを担当するのは2014年に加えて2度目でした。従って、ガバナーを始め既に親しくしている人達が多く、お互いに大変嬉しい再会になりました。

今回最初に着いた市がチョコレートで有名なハーシー市で、泊まったホテルがチョコレート通りという通りがありました。正にハーシーで成り立っている町という感じですが、ここには創業者のハーシー家が設立した貧しい子ども達の為の素晴らしい学校があり、そこには全米

から子ども達が集まり、広大なキャンパスで、伸び伸びとした教育を受けている様子を見て、アメリカの慈善活動の奥の深さを感じました。今年の大회는、第99回目で、スクラントンという全米で初めて電車が開通した市とし



でエレクトリック・シテイという呼び名がついている所で開催されました。大会は、まず、幼児の早期教育というテーマでの朝食会で始まりました。幼児教育の活動は、ペンシルバニアがまさに YCPO Young Children Priority One の発祥の地だけあって、常に看板プロジェクトとして、幼児教育への取り組みに熱心な姿勢が印象的でした。大会でのカウンセラーとしての私の役割は、総会でのカウンセラーとしてのスピーチと晩餐会で新役員の就任に当たって一人一人に対して大事な心構えを述べて正式な就任式を取り行うことです。とてもフォーマルに取り行い正しい言葉で進めるのに苦労しました。

次期ガバナーは、12年振りという選挙で行われ、2年

前のガバナー Bob Raub の奥さんが次期ガバナーに選ばれました。2年前に知り合って以降、更にこれからの2年間も親しい人物がガバナーを務めるということで、ペンシルバニアがますます身近な存在になりました。大会全体のキーメッセージは I-Plan とその中心である Formula でした。2015-16 年はその成果が出ることを期待したいものです。

最終日の朝食会では、片手片足の女性スキー選手からパラリンピックやワールドカップに挑戦し、金、銀、銅メダリストとなった話を聴き、感動的でした。

(北里光司郎国際理事)

韓国地区大会にカウンセラーとして出席して

韓国地区の大会にカウンセラーとして出席するのは、2014年に続き2度目です。今年は地区の人数も全員で450人に減り、活動全体が心配されましたが、ガバナーの Duk-Hee Yong 氏がリーダーシップを発揮して、240名の参加を得て、ソウル市で盛大に開催されました。大会は11時に開会、まず女性による韓国太鼓で氣勢を上げた後、オペラ歌手による素晴らしい四重唱で盛り上げました。各クラブの代表が旗を持って入場し、壇上に上がり、ガバナーとカウンセラーの私も一緒に壇上に上がり、



ガバナー Jang の宣誓で正式に開会しました。私の主な役目は、ガバナー就任に関する国際キワニスよりの証書をガバナーに正式に授与すること、国際キワニスを代表して祝辞を述べること、卓越した業績を示した幹部へ国際キワニスからの感謝状の授与をすること、前ガバナーから現ガバナーへの地区フラッグのハンドオーバーの仲介を務めること、等でした。3年前までは1000人の会員を擁しながら、昨年に450人まで減り、韓国地区は大変苦しい運営をしています。2017年3月には済州島でASPAC大会を開催するホスト国になっており、ガバナー Jang 氏以下のリーダーシップチームは、ASPAC大会の成功を韓国地区の大転換のチャンスにしようと必死の努力をしています。最大の応援は、多数の参加者が出席することです。ガバナー Jang さんからは、是非日本から多数の参加者を送って欲しいと何度も懇請されました。済州島は長崎県の五島列島から僅か180Kmの所にある大変魅力的なリゾート地です。日本地区の皆さんが、是非各クラブでツアーを計画して多数参加されることを期待しています。

(北里光司郎国際理事)

一般社団法人東京キワニスクラブ臨時総会 2016.9.30

9月30日の例会での卓話終了後に臨時総会が開催されました。議案は平成29年9月期の事業計画書及び収支予算書の審議でした。

吉國会長が定款19条により議長を務め、開会宣言を行い、石井事務局長から出席者65名、議決権行使書の提出者75名で計140名に達し総会員の議決権の過半

数を有しており、総会が有効に成立している旨の報告がありました。先ず、平成29年9月期事業計画書について従来の活動と併せて今期発足の座間アメリカンハイスクールキークラブ、サークルK武蔵野大学に加え更にサークルK一団体の設立等引き続いてのSLPの普及、キワニスドールに続く社会奉仕活動として今期3回実施した

「子ども食堂」等の開催を倍増、今期スタートした児童養護施設卒園進学者への奨学金制度の対象者を1名増員、松山、沖縄等でのクラブ新設の支援、「行動するキワニスクラブ」の実現のための女性層、若手層の会員増強などを事務局長が説明しました。

続いて、同収支予算書について事業計画と連動した予算の内容を鏡川財務委員長が説明しました。審議に入り、特段の異論もなく満場一致で承認されました。また鏡川財務委員長から理事会の承認により当クラブ細則14条を改正しメルシー積立金細則を定め、同積立金の用途及び積立方法を明文化しその趣旨を明確化するとともに同積立金の考え方を継承していくこととした旨の報告がありました。最後に、議長から当クラブの年度の終期は9月30日ですが、現役員の任期は定款27条により11月開催の定時総会終了時までとなり、次期新理事の選任



は定時総会の審議事項となっておりますが、参考までに次期役員候補者(案)を配布し、新旧役員間の連携を強めていきたい旨の説明がありました。

(石井亜佳理事務局長)

新入会員オリエンテーション 2016.9.23

吉国会長の活発かつ散文調の挨拶の後、林達夫(自称)次期閑事から、4Kの極意が相伝された。「小金を持って。交友を持って。健康であれ。小奇麗であれ。」そして、「健康でいたければ、BMWに乗れ。誤解するな、Busに乗れ、Metroに乗れ、そしてWalk。」(次期観爺じゃ)。中井国際委員長は、次回の国際委員会に「大物」の講師を招いている由(例会とは違う世界が覗けます)。鈴木健司クラブ新設委員長が、「会員の80%が主婦のキワニスもある。型にはめず、地域と会員の特色を生かしたクラブを新設する！」と選手宣誓。都甲社会公益委員長は、「公益行為のネタが寄せられれば、警察のように調査する」手法を披露。細田ボランティア活動副委員長と人形づくりの導師迫会員の代わりに、吉田前会長が、「頭で悩まず体を使っ



てキワニスドールを作ろう！」と、長編ドラマ的うんちく。さて新人自己紹介：天賀谷茂会員は、台湾のキワニスの方とコンタクトした模様。新木資明会員は、吉国会長のダチ公で前会長2名の舎弟だとか(水晶玉に、会長となった姿が見えます)。蒲野宏之会員は、ピアニストの花房晴美夫人に感化されて入会(妻の掌中ね)。山田明彦会員は、札幌キワニスからトラバーク。東京キワニスの自由闊達な雰囲気驚いたらしい(まだまだこんなものではないです)。次に、次期長の紹介：大野次期事務局長は、「棚澤会長に憑いて行く」誓いをたて、花井次期文化委員長は、熟成して社会貢献を思い立った由(大いに働いて頂きましょう)。和氣次期Kファミリー委員長は、恥ずかしげに頑張るぞ宣言(愉快なお人柄は子どもに好かれそう)。藤原次期ガバナーの、「キワニスでは70歳になっても友達ができる」という絶妙なキーワードの後、仲村渠メンバーシップ委員長が、「お友達もキワニス会員に！」で締めくくった。最後に、棚澤次期会長から、本日は物事を始める慶日であることが告げられ、幸先良い気運が一気に上昇。おまけは、林次期監事から「俺が俺がの我を捨てて、お蔭お蔭のゲで暮らせ」の名言あり。感嘆した天賀谷会員が、「会費6000円は安い！」という声を上げ、仲村渠が独り「ふふ」とほくそ笑む。見たか東京キワニスの隠し爪。

(仲村渠千鶴子メンバーシップ委員長)

2016年6月～9月までの活動

2016年6月	3	第2229回例会(講師:ミッシェル・シマー氏)
	7	火曜会
	8	エリミネイト・プロジェクト支援第15弾コンサート
	9	第83回日本酒を楽しむ会
	10	東日本大震災5周年報告&仙台クラブ45周年記念式典・祝賀会
	14	火曜会
	14	千代田クラブチャリティコンサート
	16	ウエルスファーゴ証券ドールをつくる会
	16	宝塚観劇会(雪組公演)
	17	第2230回例会(澤田陽介氏)
	21	火曜会
	23-26	第101回国際キワニス年次総会トロント大会
	28	火曜会
	28	第104回囲碁愛好会
2016年7月	1	第2231回例会
	5	火曜会
	10	キワニスドールフェスティバル
	12	火曜会
	14	第84回日本酒を楽しむ会
	15	第2232回例会(講師:内田伸子氏)
	15	第75回国際懇話会(講師:赤星 康氏)
	19	火曜会
	20	MSD(株)社会貢献プログラムドールをつくる会
	21	宝塚観劇会(花組公演)
	23	開東閣で楽しむ室内楽の調べ
	24	京都クラブ祇園祭(後祭)例会
	26	火曜会
	26	第105回囲碁愛好会
	28	東京医科大霞ヶ浦看護専門学校ドールをつくる会
	29	第2233回例会(講師:川村百合氏)
29	サマーパーティ	
29	靖國神社春秋例大祭及びみたま祭り直会	
31	サークルK 武蔵野大学チャーターセレモニー	

2016年8月	2	キワニス子ども食堂(於 妙法寺)
	2	火曜会
	5	第2234回例会
	9	火曜会
	19	第2235回例会(講師:粟津礼子氏)
	20	金沢クラブ設立10周年祝賀会
	23	火曜会
	23	広尾看護専門学校ドールをつくる会
2016年9月	23	第106回囲碁愛好会
	30	火曜会
	1	宝塚観劇会(月組公演)
	2	第2236回例会(第50回キワニス社会公益賞表彰式)
	2	名古屋クラブ設立50周年記念講演・記念式典・記念祝賀会
	6	火曜会
	8	第85回日本酒を楽しむ会
	9	第40回国際キワニス日本地区年次総会西宮大会
	10	青少年教育賞表彰式&交流会
	11	第50回文楽を楽しむ会
	13	火曜会
	16	第2237回例会
	18	目黒星美学園学校祭ドールをつくる会
	18	第50回文楽を楽しむ会
20	火曜会	
23	新入会員オリエンテーション	
25	大相撲秋場所観戦会	
27	火曜会	
27	第107回囲碁愛好会	
30	第2238回例会(講師:木下由美子氏&臨時総会)	

2016年10月～2017年1月 今後の予定

2016年10月	4	火曜会
	6	UBS証券ドールをつくる会
	6	宝塚観劇会(宙組公演)
	7	第2239回例会(講師:小西雅子氏)
	8	荏原看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	11	火曜会
	13	第86回日本酒を楽しむ会
	18	火曜会
	19	PGF証券ドールをつくる会
	19	日本醸造学会懇親会
	20	第26回ワインを楽しむ会
	21	第2240回例会(講師:近石康宏会員)
	21	鹿児島クラブ設立10周年記念講演会・式典・祝賀会
	24	第76回国際懇話会(講師:塩尻孝二郎氏)
	25	火曜会
	25	第108回囲碁愛好会
	26	秋季ゴルフ大会
	26	MSD(株)社会貢献プログラムドールをつくる会
	27	宝塚観劇会(星組公演)
	29	フォッグ・浦田陽子とウィーンの仲間たち
30	バレエを楽しむ会(新国立劇場)	
30	児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー	
2016年11月	1	火曜会
	5	田園調布学園ドールをつくる会(土曜プログラム)
	8	火曜会
	10	第87回日本酒を楽しむ会
	12	中村芝翫襲名披露公演
15	火曜会	
18	第2241回例会(講師:草薙直樹氏)	

2016年11月	21	東京こども専門学校ドールをつくる会
	22	火曜会
	22	第109回囲碁愛好会
	25	第2242回例会(定時総会)
	25	沖縄キワニスクラブ認証状授与式並びに祝賀会
	29	火曜会
2016年12月	1	東京家政学院ドールをつくる会
	1	宝塚観劇会(雪組公演)
	2	第2243回例会(講師:高田都耶子氏)
	4	第51回文楽を楽しむ会
	6	火曜会
	8	第88回日本酒を楽しむ会
	10	囲碁大会(第110回)及び忘年会
	11	第51回文楽を楽しむ会
	13	火曜会
	15	ウエルスファーゴ証券ドールをつくる会
	16	第2244回例会(福山雅史氏)
20	火曜会	
20,21	演劇(ヘンリー四世)を楽しむ会	
28	第九を聴く会(サントリーホール)	
2017年1月	6	第2245回例会 新年互礼会
	7	新春大歌舞伎(歌舞伎座)
	10	火曜会
	17	火曜会
	20	第2246回例会
	24	火曜会
25	第5回オペラを楽しむ会(カルメン)	
31	火曜会	

■平成28年9月30日現在 総会員数219名

■平成28年6月1日から9月30日までに入会された方 1名

富安久美

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気のその子だけの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウム2016年からはキワニスドール・フェスティバルを開催しています。

キワニスドール(Kiwanis Doll)を平成18年7月14日に、商標登録し、平成28年4月19日に更新いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて(破傷風から世界の母と子ども達を救おう)

国際キワニスとユニセフの協力で世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅します

2011年7月のジュネーブでの第96回国際キワニス年次総会に於いて、国際キワニスは、世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅するために募金活動を行うというエリミネイト・プロジェクトをスタートさせ、2015年12月までに誓約込みで1億1千万ドルの目標を達成しました。この世界的なキャンペーン活動は、キワニスの国際ボランティアネットワークとユニセフの医療ネットワークの協力により進める歴史的なプロジェクトです。

エリミネイト・プロジェクトの基本データは次の通りです。

- 妊産婦・新生児破傷風は、スタート時は、9分に1人、毎日160人の赤ちゃんの命を奪っていたが、皆様のご支援のお蔭で、奪われる命が2015年9月現在11分に1人、毎日135人に減少した。
- 妊産婦・新生児破傷風は、1回60セント、計3回1.8米ドル(約180円)のワクチン注射で母と将来の赤

ELIMINATE
maternal/neonatal tetanus



ちゃんの命を守ることが出来る。

- エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来る。

日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しています

2015年6月のインディアナポリスでの100周年の国際年次総会で、成果を「お祝いする」ことができました。

東京キワニスクラブは、先に達成した100Kクラブに続き、モデルクラブの目標\$165,000も2015年5月20日に、200Kを9月25日に達成しました。さらにゴールドクラブ(会員一人あたりの寄付額が1,000ドル以上)を2016年4月4日に達成しました。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ先住民の言葉“Nun-Keewanis”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約85ヶ国、7,300のクラブ、約20万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井の順に生まれ、現在33のクラブで会員は約1,900名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 吉國 眞一 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>